



「チームで対応」「毅然とした指導」

～こんな指導体制になっていませんか～

- 問題解決を学級担任一人に任せている。
- 学習の決まりごとや具体的な指導方針が教職員によって違う。
- 生徒指導主任と教育相談担当との連携がうまくいっていない。
- 養護教諭等の得た子供に関する情報が全教職員で共有されていない。
- 管理職が教職員個々の生徒指導の実態を十分に把握していない。

(生徒指導資料第3集「規範意識をはぐくむ生徒指導体制」:平成20年3月)他より

「チームで対応」

些細なことでも気になることがあれば、問題行動として捉え、生徒指導担当や教職員で情報共有し、複数の教職員で対応しましょう。

～問題行動等が発生した時の指導の進め方(例)～

(例)・机を不自然に離す。
・授業に5分程度遅れて入る。

①事実確認

事実を正確に把握

- ◆複数の教職員で事情を個別に聞く。
- ◆客観的な事実(5W1H)を時系列で記録する。

教職員で共通理解

- ◆生徒指導担当を中心に全教職員で情報共有する。
- ◆場合によっては、プロジェクトチーム等をつくる。

指導方針の決定

- ◆校内の規定や事実に基づいて指導方針を明確にする。
- ◆指導する教職員、場所、時間、内容等を決める。

②子供への指導

- ◆場合によっては、担任や生徒指導担当以外の教職員が指導する。
- ◆指導後、別の教職員が子供の思いを聞いたり、フォローしたりする。

③保護者への説明

- ◆担任だけでなく、生徒指導担当や学年主任も一緒に保護者へ説明する。
- ◆説明した内容や保護者の思いを管理職に報告し、全教職員で情報共有する。



「校内の子供は全教職員で関わり指導していく」という意識を持って指導することが重要です。
SCやSSW、福祉関係や医療、警察などの関係機関との連携も図りましょう。

「毅然とした指導」

教職員が足並みをそろえて「いけないことはいけない」と、毅然とした態度で繰り返し粘り強い指導をしていきましょう。

【毅然とした指導の対応(例)】

- ①指導にあたっての方針・基準を明確化・具体化し、全教職員で共通理解する。
・時間は必ず守る。・授業中に私語をしない。
- ②校内で決めた指導方針・基準に従って指導を徹底する。
・「見守り」や「受容」の姿勢を大切にしながら、間違っていることは間違っていると指摘する。
・その場で、何に對しての注意かを明確にして指導する。

毅然とした指導をすることで、

- ◆教職員にとって・・・何を指導すべきか明確になり、指導に差が生じない
 - ◆子供たちにとって・・・いけないことは何かが分かりやすく、不公平感を感じない
 - ◆保護者にとって・・・「この学校は指導に関して、全教職員で曖昧にせずに対応してくれる」という安心感が生まれる
- といったことにつながります。



教職員が「小さいことだから見て見ぬふりをしてもいいか」「子供だからまあいいか」と安易に考えて、些細な出来事に潜む問題を放置してしまうことが、大きな事案につながります。**時期を逃がさない毅然とした指導を学校全体で行っていきましょう。**また、問題行動等は子供からのSOSです。指導する前に**問題行動等に至った背景をしっかりと理解し、子供に寄り添った指導をしましょう。**